

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	Base新座教室		
○保護者評価実施期間	25年2月1日	～	25年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 17名	(回答者数)	13名
○従業者評価実施期間	25年2月1日	～	25年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 4名	(回答者数)	4名
○事業者向け自己評価表作成日	2025/3/8		
○分析結果			
	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・一人一人に対して支援の度にミーティングを行い、その子に合わせた個別支援を行なっていることが強みです。	毎朝の朝ミーティング時、送迎終了後の1日に2回は前回の子ども様子を振り返りながらその日の個別療育内容を設定しています。また、送迎終了後はその日の子どもの個別内での様子や、改善点を話し合いすぐに次回の支援に生かせるようにしています。	現在、それぞれの子どもに合わせてオリジナルのカリキュラムを用意していますが、引き続き個別療育の時間には子どもに合わせた内容とスピードで支援を行なっていきます。
2	チームワークが非常によく取れているため、常に思ったことを報連相し、全職員で支援に参画することができていることが強みです。	職員全員が個別支援計画を元に支援が行えるように個別支援専用ファイルには個別支援計画を添付しており、それを元に日々の個別療育が行えるようになっている。	事務所内でのモニタリングの頻度を多くしておりますが、引き続き常に子どもの成長に合わせた支援を行うため職員間での情報共有を積極的に行なっていきたいと思ひます。
3	メインの集団療育を行う発達支援室以外に個別療育を行える個室を2部屋設けています。子どもの発達や特性、相性等を考慮して支援できる環境を整えていることが強みです。	「まずは試してみよう」をモットーに、職員から出たアイデアはすぐに導入し、実践的に日々の療育に取り入れるようにしています。	室内の環境については極力不必要なものや、集中を削がれると思わしきものは配置していませんが、その都度最適な環境を整えられるようにしていきたいと思ひます。
	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後児童クラブや児童館との交流、地域の他の子どもと活動する機会がありません。	職員や保護者から必要との声がありません。	今後、保護者からの希望や、職員から療育が必要ではないかと検討される場合は積極的にそのような機会を作れるようにしていきます。
2	外出の機会をあまり設けていません。	放課後のメインは個別療育と集団療育となっており、外出は時間が取れずあまり行えていない。	夏休み、冬休み、春休み等比較的時間に余裕がある時に外出の機会を作り、普段のBaseの室内では体験できないような活動を行なっていこうと思ひます。
3	保護者同士で繋がれる機会がありません。	現状では、保護者からの要望がありません。	今後、保護者からの希望があった場合は積極的にそのような機会を作れるようにしていきます。

公表		事業所における自己評価結果				
事業所名						公表日 25年3月8日
	チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・ 体制 整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4				
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	3	1			
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3	1		個室を2部屋用意しており、基本的にはお子様への個別支援対応を積極的に行っている。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	3	1			
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4				
業務 改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	3	1			
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		4			開所してから初評価のためどちらともいいないが、今後ここでの評価を活かし、より良い支援に繋げていきたい。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4				
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		4			開所してから初評価のためどちらともいいないが、今後ここでの評価を活かし、より良い支援に繋げていきたい。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4				
適切 な支 援の 提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4			令和6年度開所のため今年度から公表を行っている。（リタリコ発達ナビ内の事業所情報にて閲覧可能）	
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	4				
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4				
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4				
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	2	2			固定したツールを現状用いていないため、今後検討していきたい。
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等サービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4				
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4				
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4				
	19 こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	4				

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4				
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4				
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4				
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4				
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	3	1			
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	4				
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4				開所後の担当者会議が開催されていないため評価できなかったが児発管、指導員等お子様に関わる職員を参画させる予定。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。		4		児童発達支援管理責任者を中心に連携を行う。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。		4		保護者を通して学校行事や下校時刻等についての把握を行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。		4			お子様の様子や保護者の方とも相談し、必要の際は積極的に連携していきたい。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		4		現状まだ移行するお子様は在籍していないが、今後必要に応じて情報提供を行う。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		4			今後検討していきたい。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。			4		活動の機会がないため。今後検討していきたい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	2	2		新座市地域自立支援協議会への参加実績有。今後も引き続き地域と繋がってきたい。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。					
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		4		保護者や地域の方に向けて積極的にブログやSNSを利用し、情報発信を行っている。	家族に対しての支援については、積極的に情報提供を行ってきたい。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4				
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4				
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	4				
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4				
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。		4			現状そのような会は設けてないが、今後保護者の方からの意見も聞きながらそのような交流の場を設けていきたい。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4				

非常 時等 の対 応	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	4				
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4				
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4				
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		4		令和6年6月に開所をした際に地域にリーフレットを配布し、保護者向け説明会を行なった。	今後は地域の方々と連携する機会を設けていきたい
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4				
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4				
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	4				
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		4		現状食物アレルギーがあるためお菓子提供ができないお子様は居らず未対応だが、今後、対応のお子様が出た際は医師の指示に基づいた対応が全職員できるように周知を行う。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4				
51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4					
52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4					
53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4					
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	4					